

宇部興産機械株式会社
産機事業部 橋梁技術部 橋梁設計グループ
小山 諒子さん

2018年4月に宇部興産機械株式会社に入社した小山諒子さん。学生時代から「橋」に興味を抱き、念願だった橋梁設計の仕事に就いて奮闘する彼女の魅力に迫る



「学生時代は土木工学を学び、鋼構造の研究室に所属していました。具体的には、地元の老朽化した鋼橋を現地調査し、FEM解析によって耐荷力や重点的に維持管理すべき部材の推定などを行っていました」と語る小山さん。研究を通じて、橋そのものに惹かれたという。「その橋の歴史、また地元の方々の橋に対する想いを知ることで、人々の生活を支える橋に大きな興味を持つようになりました」。

宇部興産機械株式会社への入社決め手も「橋」だった。「何らかの形で橋に関わる仕事がしたいと考え、ものづくりも好きだったので、鋼橋の設計から施工までの全てに携わることができる当社に興味を持ちました。更に1ヶ月間のインターンシップを経験させていただいたことで、鋼橋の奥深さに魅了

されただけでなく、社員の方々の温かさや鋼橋に対する熱意にも惹かれました」。

現在は橋梁の設計業務を担当し、設計計算や材料の手配、関係部署との調整などを行っている。「まだまだ分からないことばかり。基準書などを読み、勉強に励んでいます」という小山さんだが、意外なところで自身の成長を感じているのだそう。「入社当時は電話対応に緊張してしまい、うまく話せずに苦労しました。今は少し慣れてきて、わずかですが成長を実感しています」。

社会人生活に奮闘中の小山さんにリフレッシュ方法を聞いた。「DIYが好きで、木材を使って棚やテーブルを作っています。次は収納棚にチャレンジしようと材料の下見をしながら作戦を練っています。また最近、温泉巡りにハマり、休日には友人たちと温泉旅行

に行ったりリフレッシュしています」。オフタイムも橋好きは相変わらずで、「旅行に行く際は目的地近くに興味深い橋がないかを調べ、実物を見ながらその橋の構造的な特徴や作られた経緯を考えて楽しんでいます」。そんな小山さんの目標は、「経験も知識も全然足りないの、今は何事にもめげずに挑戦し、力を伸ばしたいです。自分が携わった橋が完成したという経験はまだありませんが、これから完成する橋を家族や友人に紹介したいですね」。

最後に、同じ業種への就職を考えている後輩へメッセージを送ってもらった。「この業種は女性が少ないと思われがちですが、それが進路を妨げる要因になってはいけないと思います。自分の進路に後悔がないよう、やりたいことに一直線に向かっていってください」。

上司から
ひと言



宇部興産機械株式会社
産機事業部 橋梁技術部
橋梁設計グループ
グループリーダー 片岡 省二さん

橋が大好きな彼女の成長に期待します

インターンシップ生として当社を訪れた当時から、彼女は「橋」に関することなら何でも興味津々、好きで好きでたまらないという気持ちに満ちあふれていました。当社の一員となった現在は、高速道路の橋梁の設計担当として業務に没頭しています。入社1年目でまだまだ修行の身。思い通りならず落ち込むこともあるようですが、持ち前のポジティブ思考でひとつずつハードルを乗り越え、いずれは社会全体が見渡せる橋梁技術者になってくれるよう期待しています。

リケジョの歴史

ロシアの数学者、ソフィア・コワレフスカヤ(1850~1891)は、偽装結婚してまで、女性の高等教育が許されないロシアを離れてドイツに留学。偏微分方程式を研究し、24歳の若さで「コーシー=コワレフスカヤの定理」を完成させました。ロシア人初の女性大学教授でもあります。



ソフィア・コワレフスカヤさん